《真実》の真実

公平と正義を象徴するスタイル、探偵（フェイト）。しかし彼らが暴く真実は、時として人を傷つける。探偵を憎む“探偵狩り”少女の復讐劇。『①フェイト』が彼女に示す《真実》は、何を照らしだすのか。（掲載日：2016.5.18）

プレアクト情報

PRE-ACT INFO

■シナリオ基本情報

▼作者

ソエジマ（twitter：@fireblade_954）

▼プレイヤー人数

３～４人

▼想定プレイ時間

３～４時間

▼シナリオタグ

ストリート、探偵、データやさしめ

●このシナリオについて

本シナリオはフェイト、「探偵」というものに深くスポットライトを当てたものだ。テーマはエッジが効いているが、スタンダードな導入で誰にでも遊びやすい内容となっている。

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

▼使用経験点

０～30点

▼達成値制限

制限なし。ゲストの最大達成値は21である。ただし、支援によりこれを超えることがある。

▼スタイル制限

特になし

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

個人情報を切り売りし
真実で人を傷つける
それが探偵――泥水を啜るような生き方だ

探偵に復讐を誓う少女は
探偵のもとでその手口を学んだ

真実に翻弄される少女が
辿り着く先は果たして

トーキョーN◎VA THE AXLERATION
『《真実》の真実』

電子と虚言に塗れた街で
真実よ、運命を照らせ

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。

『①フェイト』：不屈の探偵（『TNX』p82）
『②ニューロ』：ニューロキッズ（『TNX』p98）
『③イヌ』：正義の猟犬（『TNX』p84）
『④トーキー』：遊撃記者（『TNX』p88）

●特記事項

本シナリオはプレイヤーが3人の場合はトーキーを削除して対応する。

●必要な神業

ゲストが使用する即死系神業だけでキャストが死亡するのを防ぐため、キャスト全体で1個以上の防御系神業を所持することを推奨する。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する技能は〈社会：ストリート、警察、テクノロジ、メディア〉などである。

■キャスト間コネクション

以下の順番で取得すること。

『①フェイト』→『②ニューロ』→『③イヌ』→『④トーキー』→『①フェイト』

(*1) ネヴァーランド
TNX46、63参照。18歳以上のおとなは入ることが許されない子どもだけの国だが、中の子供が許可をしてくれた場合やネヴァーランドの卒業生の場合は中に入ることが許される。『②ニューロ』が18歳以上の場合、そういった背景を用意するといいだろう。

(*2) 機動捜査課
TNX59参照。『③イヌ』が所属する機動捜査課は、その中でも現場主義の部隊だ。

アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

各キャストには、以下の設定が推奨・追加される。
『①フェイト』：N◎VAの探偵
『②ニューロ』：フリーのハッカー
『③イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課の刑事
『④トーキー』：フリーのジャーナリスト

①推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

コネ：“探偵狩り”狩野マミ　推奨スート：理性

君には狩野マミという弟子がいた。少し前に突然現れ、君から探偵の手口を学び、突然姿を消した。久しぶりに彼女の名前を聞いたのは、探偵業界で彼女が話題の人物になっていたからだ。今の彼女は探偵を探偵し、引退させるまで追い込む“探偵狩り”だと言う。

【PS：マミを追う】

②推奨スタイル：ニューロ

SCENARIO HANDOUT

コネ：狩野マリ　推奨スート：感情

行き場のない子どもの楽園・ネヴァーランド(*1)に住む、友人のマリが死んだ。病弱なマリは自室から出ず、ウェブ越しに街を観察する趣味があったが、大変なことを目撃したため、彼女の居場所を探偵が追っていたと言う噂がある。死んだのではなく、殺されたのだ。

【PS：マリの仇を探す】

③推奨スタイル：イヌ

SCENARIO HANDOUT

コネ：“暴走課長”レイ　推奨スート：理性

君が所属する機動捜査課(*2)は、規律よりも事件解決を優先する正義の猟犬だ。時にやりすぎ、同じ警察の尾を踏む時もある――今回のように。メガコーポエグゼク殺人事件を内偵していた課長に上層部の圧力がかかり、戦線離脱させられた。後を継ぐのは君しかいない。

【PS：レイの案件を引き継ぐ】

④推奨スタイル：トーキー

SCENARIO HANDOUT

コネ：“軟弱探偵”不動学武（ふどう・まなぶ）　推奨スート：外界

トゥルース・リサーチ社。電脳とテクノロジを駆使し、効率を重視するこの探偵社は、探偵業界の印象をクリーンなものに変えた。だが光が強いところこそ、闇も深い。君の取材に対応した代表社員・不動学武の態度は、その疑惑を確信に変えるに十分なものだった。

【PS：トゥルース・リサーチ社のゴシップを報道する】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

地域の治安維持のため、民間の金銭トラブル等の解決の権限を探偵社を預ける民間保安員制度。他国では既に導入されているこの制度が、トーキョーN◎VAにも導入されようとしていた。

民間保安員に選定された探偵社は莫大な利益を得る。一方、選定するブラックハウンドも多大なバックマージンを得ることが可能だ。新興の探偵会社トゥルース・リサーチ社はブラックハウンド上層部と取引を行い、民間保安員になるための実績作りとして、メガコーポのエグゼク殺人事件の解決を自作自演した。

しかし、この殺人事件の真相を目撃した一人の少女がいた。彼女の名前は狩野マリ。行き場のない子どもたちの楽園・ネヴァーランドに住む病弱な少女だ。マリは姿を隠すも、トゥルース・リサーチ社の探偵たちはその捜査能力を最大限に発揮し、彼女を補足し、事故死に見せかけて殺害した。

マリの姉・マミは、マリの死因を調べる中で、探偵社が関わっていた事実を知る。探偵と戦うために探偵の手口を知ろうと、『①フェイト』に弟子入りし、“探偵狩り”として活動を始めた。

マリの死因を追う人間は他にもいる。マリの友人の『②ニューロ』、メガコーポのエグゼク殺人事件の真相を探る『③イヌ』、トゥルース・リサーチ社の醜聞を求める『④トーキー』は、トゥルース・リサーチ社が用意した《真実》の真実を追求する戦いに挑む。

■クライマックスの条件

下記2点を満たした場合、クライマックスフェイズに移行する。

・「民間保安員選定委員会」のアドレスを得た。
・【殺人事件の真相】についてのリサーチが完了した。

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1：個人情報の冴えた使い方

シーンプレイヤー：ルーラーシーン
登場：不可

◆解説

マリはマミが《電脳神》で用意した、他に人間には場所を特定できないネヴァーランド秘密基地と言う隠れ家にいる。この場所を特定するためには神業が必要になる。

本シナリオの敵ゲスト“軟弱探偵”不動学武は口封じのためにマリを殺そうと動いているが、ウェブ越しに会話はできるものの、隠れ家の特定には至っていない。そこで《真実》を使用してマリの居場所を特定する。

◆描写1

質素だが清潔なオフィスの主は30代の優男。優男は宙空に浮かぶホロの少女にウェブ越しに話しかけている。まるで友人にでも話しかけるかのように。

▼セリフ：“軟弱探偵”不動学武

「僕は探偵。正義の味方だ。君のお姉さんに頼まれて、君を保護したいんだ。そのためにもウェブ越しではなく、直接会いたい。今いる場所を教えてくれないか」

「僕はマミさんの友達なんだ。先日はマミさんが好きなアサクサのカフェに一緒に行ったし、マミさんが君の誕生日にプレゼントしたネックレスも一緒に選んだんだ。これでも信じてくれないかい？」

「ああ、信用して欲しい。だから教えてくれないかい？
今、君がいる場所を（《真実》を使用）」

▼セリフ：狩野マリ

「探偵さんですの？　でもお姉ちゃんは、知らない人には場所を教えちゃダメって。探偵さんは知らない人なのです」

「そうなんですの？　そこまで知ってるってことは、やっぱりお姉ちゃんの友達ですね。疑ってごめんなさい」

「はい！　私、ネヴァーランドの秘密基地にいるのです！　お姉ちゃんが用意してくれた特別な場所なのです！」

◆処理

不動は《真実》を使用し、マミの《電脳神》で隠されていたマリの居場所を特定する。

◆結末

マリから転送されたアドレスは、彼女がいる場所を示していた。「すぐに迎えに行くよ」笑顔のまま宙空の少女に語りかけ、通信を切ると、今度は別の回線を開く。「姉妹の報告書をまとめた捜査員によくやったと伝えろ。過不足なくまとめた、使いやすい個人情報だったと」そして男は鮫のように笑う。「場所を特定した。直ちに精鋭を送れ。確実に処分しろ」

男の手元には「狩野マミ・マリの個人情報に関する報告書」と銘打たれたデータ。少女二人の趣味・嗜好・背景・購入履歴・最近あった出来事……様々な分野について詳細に記載されていた。

●オープニング2：最後の会話

シーンプレイヤー：『②ニューロ』

登場：不可

◆解説

このシーンは描写1と描写2で別れる。描写1では『②ニューロ』のコネであるマリとの回想シーン。描写2ではマリが死んだ後のシーンを演出する。

◆描写1

廃棄されたショッピングモールに、行き場のない子どもたちが集まり、いつしか子どもたちだけの国はネヴァーランドと呼ばれるようになった。狩野マリはそのネヴァーランドにする少女の一人だ。病弱で外を歩くことはほとんどないが、明るい笑顔と優しい性格でネヴァーランドの人気者だ。

その日は彼女の誕生日。ウェブ越しに、彼女は明るい声で君にネックレスを見せびらかしてきた。

▼セリフ：狩野マリ

「ねえねえ、『②ニューロ』！　このネックレス見て！　お姉ちゃんに誕生日プレゼントもらったのです！」

「お姉ちゃんにお返ししないといけないんだけど、私、外の街に詳しくないから……今度、お姉ちゃんへのお返しを一緒に考えてほしいのです！」

◆描写2

それが最後のマリとの会話だった。マリの姉へのプレゼントのお返しを考える機会はやって来なかった。マリは死んだ。ネヴァーランドの外で交通事故にあった。ネヴァーランドの子どもたちは、誰もが不審に思っていた。マリはネヴァーランドの外に出ないからだ。

マリが死んでから1ヶ月。マリがいなくなった部屋を掃除しようと、仲が良かった人間が集まった日のことだった。

▼セリフ：ネヴァーランドの子どもたち

「……実はさ。マリがいなくなる少し前、探偵たちがマリのことを調べてたんだよ。今思うと、あれってあやしいよな……」

「でもマリは秘密基地にいたんでしょ？　秘密基地の場所は私たちだってわからなかった。マリのお姉さんが用意した隠れ家だって聴いてるわ」

◆結末

子どもたちはマリが住んでいた部屋の掃除を黙々と続ける。

●オープニング3：探偵志願

シーンプレイヤー：『①フェイト』

登場：不可

◆解説

このシーンは描写1と描写2で別れる。描写1では『①フェイト』のコネであるマミとの回想シーン。描写2ではマミが別れを告げるシーンを行う。

ハンドアウトにある“探偵狩り”に関しては、序盤のイベントシーンで告げる。

◆描写1

『①フェイト』の探偵事務所の扉を一人の少女が開けた。10代後半にしては鋭利な空気を纏った少女は、真剣な表情で君に話を切り出した。

▼セリフ：狩野マミ

「私は狩野マミ。探偵さんにお願いがあってきました。私を弟子にして欲しいんです。探偵の手口を教えて欲しいんです」

「なんでもします。探偵の知識、手口、弱点……全て教えて欲しいんです。お願いします」

◆描写2

狩野マミは助手として優秀だった。彼女が手伝った1ヶ月間、君の事務所は今まで以上に繁盛した。忙しい中、彼女は次々と君から学んでいった。探偵の手口、考え方、業界知識、そして弱点。何かに取り憑かれたかのように吸収する彼女は、ある日ここに来た時と同じ真剣な表情で『①フェイト』に話を切り出した。

▼セリフ：狩野マミ

「『①フェイト』さんのおかげでいろんなことを学ぶことができました。ありがとうございます」

「……私、許せない相手がいるんです。私の妹は事件に巻き込まれて殺されました。誰にもわからない場所に隠れていたのに……探偵が、隠れていた場所を暴いて……何のためにかわからないですけど……だから探偵の考え方が知りたくて……」

◆処理

マミが助手として手伝っている1ヶ月間、『①フェイト』の事務所は普段より繁盛しており、臨時収入がある。3報酬点を『①フェイト』に渡すこと。

◆結末

マミは悲痛な表情で、『①フェイト』に弟子入りした理由を告げた。

次の日、彼女は君の前から姿を消した。

●オープニング4：猟犬の共食い

シーンプレイヤー：『③イヌ』

登場：不可

◆解説

メガコーポエグゼク殺人事件を内定していたレイに圧力がかかる。“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海の《制裁》により、レイは捜査を断念することになる。代わりに『③イヌ』に対して情報を渡し、案件を引き継ごうとする。

◆描写

特務警察ブラックハウンドの中でも機動捜査課は変わり者の集まりだ。「凶悪犯罪の初動調査」と言う建前のもとに、規律よりも事件解決に重点を置く。この日、課長のレイは自分のデスクで資料と格闘していた。「やっぱりおかしいよな、これ……おい、『③イヌ』！」レイは立ち上がり、君に声をかける。「1か月前にあった、メガコーポのエグゼク殺人事件についてなんだが」「その必要はありません」レイが全てを言い終わる前に、機動捜査課のオフィスに入ってきた男たちの声が響く。

▼セリフ：ブラックハウンド（エキストラ）

「レイ課長、その案件は終わった案件です。それに、機動捜査課の捜査範囲外だ。所轄外のことは触らないでいただきたい」

「少し頭を冷やしていただきます。これが上層部からの辞令です」

◆処理

レイに《制裁》が使用される。効果は社会戦ダメージ[17:逮捕令状]。レイはシーンから退場し、エンディングフェイズまで登場することはない。

◆結末

「職務停止だ！？　ふざけんな！」見せつけられる辞令に対し、“暴走課長”は掴みかからんとする勢いだ。拳を握りしめ、しかしギリギリのところで深呼吸をすると「……わかった。頭を冷やせばいいんだろ」。荷物を片付け始めた。

オフィスを出て行く途中、君のデスクの横を通りがかる。すっとデスクの上に資料がまとまったデータを置くと、君に目で訴える。この事件はお前に任せた、と。

●オープニング5：探偵業界の革命児

シーンプレイヤー：『④トーキー』

登場：不可

◆解説

このシーンは描写1と描写2で別れる。描写1ではチャンネル99(*3)の結城あやからの依頼。描写2ではトゥルース・リサーチ社で取材を行う。

◆描写1

『④トーキー』を呼び出したのはチャンネル99の総合プロデューサー・結城あや。君を迎え入れた応接室には、ブラックハウンドの警察発表のデータがまとめあげられている。

▼セリフ：結城あや

「トゥルース・リサーチ社って知ってる？　最先端の科学操作と電脳を駆使した効率主義。クライアント・ファーストの経営理念。彼らはフェイトの泥臭く胡散臭いイメージを替え、フェイトたちに市民権を与えつつあるわ」

「最近はブラックハウンドも彼らに頼ることがあるみたい。かなりのイメージアップね」

「正直に言うわ。探偵ってそんなに綺麗な仕事じゃないと思っているの。叩けばホコリが出るはずよ。欲しいのはそういう記事よ」

「これは調査費用よ（3報酬点を渡す）。早速だけど取材に行ってきて。先方にアポはとってあるわ」

◆描写2

トゥルース・リサーチ社はイエローエリアにオフィスを構える、新興の探偵会社だ。質素だが清潔なオフィスに入ると、1人の探偵(*4)が君を待っていた。

▼セリフ：“軟弱探偵”不動学武

「『④トーキー』さんですか？　はじめまして。私はトゥルース・リサーチ社の代表社員を務めさせていただいております、不動学武です。今日は取材ということでよろしくお願いします」

「我々は探偵のイメージを一新すべく、日夜励んでおります。一般市民が持つ、泥臭く胡散臭いイメージ。フィクションに出てくるような、名探偵のイメージ。どちらも真の探偵とはかけ離れています。探偵に必要なのは技術と効率化、そしてそれによるコストの圧縮です」

「困ったことがあれば、いつでも頼ってもらって構わない。我々は真実で人を傷つけないから恐れないで欲しい――『真実は人を傷つける』などというのは二流の探偵です。我々一流はそうではないのです」

◆処理

結城あやから3報酬点が調査費用として渡される。また、『①フェイト』の名前を『④トーキー』に出しておくこと。

(*3) チャンネル99

TNX57参照。マスコミ企業「マリオネット」の1セクションだ。『④トーキー』はフリーランスのジャーナリストとして、チャンネル99のプロデューサー結城あや（TNX69）から依頼を受けることになる。

(*4) 一人の探偵

“軟弱探偵”不動学武は「●オープニング1：個人情報の冴えた使い方」で《真実》を使った男性と同一人物だ。このことはプレイヤーに告げてしまって構わない。

◆結末

不動の発言はすべて正論だが、所謂「正義の味方」としての探偵らしさを馬鹿にした雰囲気と、頭の悪い民衆を見下す態度が感じ取れる。しばらくすると、秘書と思わしき男性が不動のもとに現れる。

「先生。そろそろ例の件で『①フェイト』さんの事務所に行く時間です」

「そうか、今行く。記者さん、すいません。次のアポが入ってまして。『①フェイト』さんという探偵の事務所に行く仕事があるのですが、折角ですから、行きすがらお話を続けましょうか？」

不動は『④トーキー』に対し、同行するよう促す。

No Image

狩野マミ

ニューロ◎、フェイト●、チャクラ

▼設定

「私は探偵を許さない。世界で一番、汚い生き方よ」

ネヴァーランド出身の 19 歳。殺人事件の真犯人を目撃した妹のマリを守るため、ネヴァーランドに秘密基地を作るも、そのセキュリティを破られてしまい、マリは殺されてしまう。

マリが見つかるきっかけとなったのは、探偵が調べてきた個人情報だった。探偵に復讐するため、『①フェイト』のもとに弟子入りし、探偵の手口を学ぶことになる。

▼神業（未希と共有している。）

■《電脳神》：ネヴァーランド秘密基地を用意するために使用している。

■《真実》：クライマックスで不動に使用。

□《黄泉還り》：特に使用しない。

No Image

狩野マリ

エキストラ（ミストレス◎）

▼設定

「私、元気だったら、探偵さんになりたいです！」

病弱で、外の世界に出ることができないネヴァーランドの少女。姉のマミが用意してくれた電脳のソフトウェアで、街の様子を眺め、行った気持ちになるのが趣味。そんな彼女の願いは探偵になること。『①フェイト』と言う探偵が街中で活躍するのを見て憧れていたが、願いは叶うことなく殺されてしまう。

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●イベント1：探偵の探偵 (*5)

条件：リサーチフェイズの最初のシーン
シーンプレイヤー：『①フェイト』
登場：『①フェイト』による／SR：『①フェイト』による

◆解説

リサーチフェイズの最初のシーン。舞台は『①フェイト』の事務所となる。『①フェイト』の事務所に不動が現れ、“探偵狩り”について注意を促すふりをしつつ、『①フェイト』の様子を探る。

プレイヤーが4人の場合、このシーンでの『④トーキー』との合流を想定している。『④トーキー』が同行する場合はそのまま登場するし、同行していなくても、『④トーキー』のオープニングシーンで不動の口から『①フェイト』の名前が出たことを告げ、登場を促しても構わない。

『①フェイト』が事務所の外にいる場合（マミを探しに外を歩いている場合など）、同僚は『①フェイト』を追いかけて適宜現れる。

◆描写

『①フェイト』の事務所に予期せぬ来客が現れた。来客の名前は不動学武。トゥルース・リサーチ社の代表社員。探偵同士という意味では、『①フェイト』とは同業者にあたる。

▼セリフ：“軟弱探偵”不動学武

「初めまして、『①フェイト』先生。私、トゥルース・リサーチ社で代表社員をつとめております不動と申します」

「先生のお噂はかねがね。本日は注意喚起に参りました。先生、“探偵狩り”というものをご存知でしょうか？」

「探偵を闇討ちし、いろいろ情報を聞き出した後で、その探偵が現場復帰できないようにする危険な相手です。名前は確か……狩野マミ、だったと思います」

「その手口から、探偵について相当研究しているようです。先生もお気をつけください。しかし探偵について詳しいとなると、誰が“探偵狩り”にその手口を教えたのか……？（観察するかのように、『①フェイト』の顔を見つめる）」

（『④トーキー』に対し）「探偵の地位向上も我々の使命です。他社とは言え、“探偵狩り”のせいで捜査に支障が出るようでは、探偵業界の人間も安心して仕事ができませんので、こういったことも時々行っています」

◆処理

【探偵狩り】について調べることが可能になる。

◆結末

不動は“探偵狩り”のことをただ話に来たわけではない。何らかの情報を掴み、『①フェイト』に対して釘を刺すのと、その実情を調べに来たというところだろう。

『①フェイト』とのやり取りを終えると事務所から立ち去る。

●イベント2：猟犬の横槍

条件：『③イヌ』が【メガコーポエグゼク殺人事件】についてリサーチした
シーンプレイヤー：『③イヌ』
登場：『③イヌ』による／SR：『③イヌ』による

◆解説

レイから引き継いだ【メガコーポエグゼク殺人事件】を調査した『③イヌ』に対し、協働課から横槍が入る。

◆描写

エグゼク殺人事件を調べている最中、『③イヌ』の端末に緊急回線が飛び込んでくる。『③イヌ』が何かするまでもなく回線は勝手に開く。おそらく腕利きのニューロの仕業だ。浮かび上がるホログラフは、冷たい目で『③イヌ』を見据えてくる女性のブラックハウンド隊員。

▼セリフ：ブラックハウンド隊員（“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海）

「『③イヌ』さんですね。協働課の者です。ただちに現在捜査している件から手を引いてください」

「あなたが行っていることは機動捜査課の業務外に対する業務越権行為であり、既に終わった事件を調べる二度手間は経費の無駄遣いです。このままでは色々厄介事が起こると思いますよ」

「忠告はしました。どうなっても知りませんよ」

◆処理

ブラックハウンド隊員（【“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海】）について調べることが可能になる。

◆結末

ブラックハウンド隊員は、伝えるべきことを伝えると回線を切る。

(*5) 探偵の探偵
「オープニング3：探偵志願」で『①フェイト』が事務所を飛び出してマミを探している場合、シーンは路上や街中になるだろう。

●イベント3：記憶と記録

条件：【ネヴァーランド秘密基地】のアドレスに向かった
シーンプレイヤー：『②ニューロ』
登場：〈社会：ストリート〉／SR：レッド

◆解説

このシーンは描写1と描写2で別れる。描写1ではネヴァーランドに入り、秘密基地で記録媒体を見つけるまでのシーン。記録媒体の中身は“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海の《電脳神》で消去されているが、『②ニューロ』の《電脳神》等で復旧が可能だ。復旧した場合、描写2に移る。

◆描写1

木更津湖沿いの廃棄されたショッピングモールを勝手に子どもたちが使い始めたのがネヴァーランドの始まりだ。その入口ではやんちゃそうな子どもたちが門番(*6)をしており、大人たちが勝手に入ることは許されない。例外はネヴァーランドの子どもと仲がいい大人、例えば『②ニューロ』などだ。『②ニューロ』の顔を見れば門番の子どもたちは通してくれる。

ショッピングモールの巨大な倉庫の奥に秘密基地は存在した。本来であれば偽装されていたのであろう、使われていない商品棚が床に転がり、その奥に秘密基地に入る扉がある。

秘密基地は簡素な小部屋だが、ベッドなどの各種家具は揃えられている。マリが使っていたと思われる情報端末もあるが、何者かの手によってデータが消去されている。しかし『②ニューロ』なら、データの復旧は可能だ。

▼セリフ：ネヴァーランドの子どもたち

「ちょっと待ちな！　こっから先は子どもだけのネヴァーランドだ。大人はここを通せないぜ」
「なんだ、『②ニューロ』の連れかよ。通っていいぜ」
「そういや、この前もマリが発行したフレンドパス(*7)を持ったヤツらが倉庫の方に向かったよ。最近、部外者が多いんだよなあ」

◆描写2

復旧した情報端末のデータには、マリの記録と記憶が詰まっていた。マリが見てきた映像が次々と再生される――

ある日、マリは街を眺めていると、事件解決のために悪漢と戦う探偵(*8)の姿があった。その姿は『①フェイト』と同一のものだ。

ある日、マリはマミに、悪漢と戦った探偵の話をした。「私も元気だったらああいう探偵になりたいな」と言うと、マミは「私が代わりになってあげる」と約束した。

ある日、『②ニューロ』に弱音を吐いてしまった。体が弱くてやりたいことがやれない。なんでお姉ちゃんと私は違うのだろう。そんな私の話を、『②ニューロ』は聞いてくれた(*9)。

ある日、マリが街を眺めていると、メガコーポの重役と思われる人間が、ブラックハウンドの制服を着た女性(*10)と歩いていた。女性と何か話し合いをしていると、重役は背後からナイフで刺された。それはメガコーポのエグゼク殺人事件で犯人にされたスクワッターとは全然別の人間だ。

ある日、マリはそのことをマミに話すと、マミは秘密基地を用意してくれた。「知らない人にこの場所を教えないようにね。大丈夫。必ず助けるから」と言ってくれた。

ある日、マミの友達という探偵さんが、ウェブ越しに連絡を取ってきた。探偵さんはお姉ちゃんが好きなカフェのことも、誕生日プレゼントのネックレスのことも知っていた。それに探偵さんは正義の味方だと思った。助けてくれる。嬉しかった。

ある日、秘密基地の入口を乱暴に開ける音が聞こえてきた。初めて見る大人の人達が部屋に飛び込んできた。怖くて声が出ない。体が動かない。掌で顔に迫る。視界が真っ黒になり――恐怖と興奮の感情が、データとして『②ニューロ』の電脳に注ぎ込まれる。

視界が暗いまま、“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海の声のみが記録されていた。「やれやれ、面倒なガキね。この記録も消去しておかないと」(《電脳神》を使用)。

記録はここで途絶えている。

◆処理

映像により、メガコーポエグゼク殺人事件の真犯人が別にいること、真犯人をマリが目撃していること、そのために秘密基地に隠れざるを得なくなったこと、不動学武が秘密基地の場所を突き止めたこと、そしてマリが口封じに殺されたことの確証となる。

◆結末

情報端末のデータの再生が終わると、部屋のDAK(*11)の回線が開く。「……『①フェイト』さん？

なんでそこにいるんですか？」声の主はこの秘密基地を作った狩野マミだった。

(*6) 門番
ネヴァーランドに入ることが出来るのは子どもと『②ニューロ』だが、『②ニューロ』と同行するのであれば他のキャストも入ることは可能だ。また、ルール的には登場判定に成功する・アドレスを利用して登場することでネヴァーランドに入ることはできる。その場合は「門番の子どもたちに見つからずに入った」「ネヴァーランドの子どもに知人がおり、紹介してもらった」などの形になるだろう。　プレイヤーが迷うようであれば、素直に「『②ニューロ』と一緒だったら入ることができる」と告げてしまい、合流を促したほうが進行はスムーズになる。【メガコーポエグゼク殺人事件】等の情報でネヴァーランドの単語は出ているので、これを理由に合流させてもいいだろう。

(*7) フレンドパス
大人がネヴァーランドに入るために、子どもが発行する通行証。入ってきたのはトゥルース・リサーチ社の捜査員だ。不動が《真実》で手に入れたアドレスに向かう演出の一環としてこういう形をとっている。プレイヤーが「なぜトゥルース・リサーチ社の人間がネヴァーランドに入ることができたのか」を疑問に思うようであれば、この情報を伝えること。

(*8) 悪漢と戦う探偵
『①フェイト』が解決した他の事件と言う扱いになる。マミはこの話を聞いたため、『①フェイト』を探し出し、オープニングの依頼をすることになる。

(*9)『②ニューロ』は聞いてくれた
回想の中で『②ニューロ』と会話を行う。

(*10) ブラックハウンドの制服を着た女性
“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海だ。【自作自演の証拠】の情報で出るが、殺されたエグゼクをレッドエリアに呼び出している。

(*11)DAK
TNX30参照。この場合、ネヴァーランド秘密基地のAI搭載型管理機構だ。

●イベント4：Beautiful Chaser

条件：「●イベント3：記憶と記録」の直後
シーンプレイヤー：『①フェイト』
登場：〈社会：ストリート〉／SR：レッド

◆解説

「●イベント3：記憶と記録」の直後のシーン。

マミはDAK越しに、トゥルース・リサーチ社に向かう事を告げる。キャストの制止は受けない。

マミの口から【自作自演の証拠】について聞き、調べることが可能になる。キャストがこのことに危機感を感じ、マミを追って民間保安員選定委員会に向かえばクライマックスフェイズに移行する。

◆描写

DAKの回線にはマミの姿がある。『①フェイト』のところを飛び出してから、荒事をこなしているせいだろう。顔には擦り傷やアザの治療の痕がある。

▼セリフ：狩野マミ

「誰かがこの部屋に入ったとき、私の端末に情報が入るようにしておいたんです。『①フェイト』さんもここに辿り着くとは。流石ですね」

「探偵がこの場所を探っていたと聞いて、マリが教えてくれた探偵さんのことを思い出したんです。それが『①フェイト』さんでした。そうして探偵のことを知り、自分でもいろいろ調べていくうちに……見つけたんです。トゥルース・リサーチ社を」

「乗り込んできた男たちは、トゥルース・リサーチ社の捜査員でした。一人一人見つけ出し、話を聞きましたよ。この一件は不動学武の自作自演です。目障りなエグゼクを殺し、その罪を無関係の人間に押し付け、さも自分が解決したかのように胸を張り、その実績を武器に民間保安員の仕事を得る。だから、真実を知るマリは……殺された」

「捜査員の証言をまとめ、凶器となったナイフの購入履歴の偽造の痕跡も突き止めました。【殺人事件の真相】を、不動に突きつけてきます」

◆処理

【殺人事件の真相】について調べることが可能になる。

◆結末

「『①フェイト』さん、今までありがとうございました。でも……これ以上迷惑をかけることはできません。ここからは、私一人でやります」

マミは一方的に連絡を切る。

■情報項目

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。

『①フェイト』：【狩野マミ】
『②ニューロ』：【狩野マリ】【ネヴァーランド秘密基地】
『③イヌ』：【メガコーポエグゼク殺人事件】
『④トーキー』：【メガコーポエグゼク殺人事件】【トゥルース・リサーチ社】【"軟弱探偵"不動学武】

◆狩野マミ

〈社会：ストリート〉〈コネ：狩野マミ〉

7　ネヴァーランド出身の19歳。元ストリートキッズ。『①フェイト』のもとで探偵修業中だったが先日失踪した。

10　ネヴァーランドに病弱な妹【狩野マリ】がいる。親がいないため大切に面倒を見ていたが、1ヶ月前に事故死している。

12　妹を支えるため、荒事も経験してきている。腕っ節が強く、下手な大人でも素手でKOできる（チャクラ）。

◆狩野マリ

〈社会：ストリート、テクノロジ〉〈コネ：狩野マリ〉

7　ネヴァーランドの12歳の少女。病弱であまり遠くに出歩くことはできないが、明るい性格で周囲に元気を与える人気者（ミストレス）。【狩野マミ】と言う姉がいる。

9　病弱で引きこもりがちだが、街頭のカメラなどから街の様子を覗くのが好きで、本物の探偵が活躍するシーンも目の当たりにし、探偵に憧れていた。

11　1ヶ月前に交通事故で死亡。死亡直前、街頭のカメラで【メガコーポエグゼク殺人事件】の犯人を見たと周囲に話していたとされる。見てきたデータを保存・管理する几帳面な性格だったため、まだデータが残っているかもしれない。

13　ネヴァーランドの外で事故にあったが、遠くに出歩かないため、ネヴァーランドの子どもたちは不審に思っている。警察は轢き逃げ事件として判断するも、被害者に市民IDがない(*12)ため、捜査は打ち切られている。

◆ネヴァーランド秘密基地

〈社会：ストリート、テクノロジ〉
〈コネ：狩野マミ、狩野マリ〉

10　ネヴァーランドの外の大人とのトラブルを避けるため、非常事態に使う隠れ家（セーフハウス）。病弱なマリのため、マリが住む部屋の近くの倉庫に、偽装されていてわからないように存在する。アドレスを入手する。

(*12) 市民ID
TNX31参照。マミやマリのように、ネヴァーランド出身の人間にはXランクの未登録市民が多い。警察に都合のいい理屈で言えば、「登録された市民は誰も死んでいない」ため、この件を深く追求する必要性は必ずしも存在しない。

12　用意したマミが入念に偽装しているため、よほど腕利きのハッカーか、マリが自分から場所を教えない限りは知られることはない（マミの《電脳神》の効果）。

◆メガコーポエグゼク殺人事件

〈社会：ストリート、警察、メディア〉

8　メガコーポのエグゼクが、レッドエリアの治安安定のための視察に向かった際に殺害された事件。殺されたエグゼク (*13) は慈善事業家として有名で、温厚な性格から怨恨を買うことはなく、しかし犯人の痕跡がないため、事件の捜査は難航を極めた。

10　ブラックハウンドのみでは犯人を特定できず、【トゥルース・リサーチ社】の【"軟弱探偵"不動学武】が科学調査と電脳による追跡を行い、凶器を特定。凶器となったナイフの購入履歴からレッドエリアのスクワッター (*14) を追跡したところ、金目当てで襲ったと自供。事件解決に至った。

14　【狩野マリ】というネヴァーランドの少女が事件を目撃したという情報があり、ネヴァーランドの子どもたちの噂になっている。この情報が内部で揉み消されており、公式資料には残っていない。

◆トゥルース・リサーチ社

〈社会：ストリート、警察、メディア〉
〈コネ："軟弱探偵"不動学武〉

8　新興企業の探偵会社。オールドスタイルのフェイトではなく、電脳やテクノロジを駆使するタタラやニューロの比率が多いのが特徴。代表者は【"軟弱探偵"不動学武】。

10　『④トーキー』と言うジャーナリストが取材を行っている。

12　【メガコーポエグゼク殺人事件】の解決により注目を浴びて市民からの評判はよく、警察内部でも評価されている。特にブラックハウンド協働課の【"シープドッグ"カトリーヌ・鳴海】からの評価が高い。

14　「人を傷つけるような真実しか用意できない探偵は二流」と称している。結果として依頼人にとって都合の悪い真実がある場合、追加で依頼を受ければ証拠隠滅などの真実の書き換え作業を行う、事件屋としての顔も持つ。

16　【メガコーポエグゼク殺人事件】の直後、ネヴァーランドに精鋭を動員している。

◆"軟弱探偵"不動学武

〈社会：ストリート、メディア〉
〈コネ："軟弱探偵"不動学武〉

8　「クライアント・ファースト」を経営理念とし、最先端の科学調査と電脳を駆使して事件を解決する探偵。求められる範囲の口当たりのいい情報の提供と、それをもとにした依頼人の悩みの解決に主眼を置く。

12　ハードボイルドとは対極にあるため"軟弱探偵"と言う不名誉な呼ばれ方もするが、「軟弱で結構。頭が硬いだけの旧態然の探偵とは違う」「我々は顧客に寄り添い、事件の解決と欲しい情報の提供ができる」と逆手にとってPRし、顧客を拡大している。

14　自らも新星帝都大学の理工学部を卒業しているタタラ。

◆探偵狩り

〈社会：ストリート、警察〉〈コネ：狩野マミ〉

8　狩野マミが行っている、探偵への襲撃。標的の探偵の持っている情報の奪取と、探偵の悪事の公開により現場への復帰阻止が行われている。

10　探偵の思考の裏をかく手口と、巧みな電子妨害により、補足するのは相当困難と思われている。

12　主に【トゥルース・リサーチ社】の探偵が標的になっており、【メガコーポエグゼク殺人事件】に関わった操作員から事件の詳細を聞き出し、真犯人を特定する材料を集め、突きつけることを狙っている。

◆"シープドッグ"カトリーヌ・鳴海

〈社会：警察、テクノロジ〉

8　市民・民間との協働事業を担当する、ブラックハウンド総務部協働課所属。"シープドッグ（牧羊犬）"の如く、飼い主の財産を守るのが主な任務。

11　協働課は民間業者との接点が多く、上層部への汚職や賄賂が横行している。そのため上層部の意向に従い、汚職等の証拠隠滅を図る電脳のスペシャリスト。防犯カメラなどの発見・逆探知を得意とする。

13　【メガコーポエグゼク殺人事件】を掘り起こそうとするレイの動きを察知し、上層部に圧力をかけるように進言している（《制裁》を使用している）。

15　協働課上層部の利権となりうる【民間保安員制度】の選定先として【トゥルース・リサーチ社】を推しているが、事件の真犯人が出てくるとそれが危うくなるため、証拠隠滅に動いている。『③イヌ』に横槍を入れたのもこの人物だ。

(*13) 殺されたエグゼク
シナリオにおいて重要な存在ではないため、名前等は特に設定していない。情報をコンパクトにするため、ここでは情報項目にある程度のことだけ伝えればいいだろう。

(*14) スクワッター
主にスラム街の浮浪者・不法占拠者を意味する。

◆民間保安員制度

〈社会：警察、メディア〉

8　北米などで既に行われている制度で、トーキョーN◎VAでも導入が決定した新制度。刑事事件は警察が取り扱うのに対し、行政府が指名した探偵社が金銭トラブル等の民事問題を事前に察知し解決することで、地域の治安維持・安定を行う。

10　指名された探偵社は行政府から多額の依頼料を受け取ることができる。一方、指名する行政府と推薦するブラックハウンドは、探偵社からの見返りとして多額のバックマージン(*15)を得る可能性もある。

12　【メガコーポエグゼク殺人事件】で殺されたエグゼクは、この件を探偵社ではなく、アサクサのボランティア等を有効活用する方針を提案しており、エグゼクが殺されるまでは制度の許可がおりなかった。

14　担当窓口であるブラックハウンド総務部協働課が「民間保安員選定委員会」を開催し、その場で選定される探偵社が決まるが、【トゥルース・リサーチ社】に太刀打ちできる探偵社は存在していない。開催場所はブラックハウンドのアサクサ出張所（アドレスを入手）。

◆殺人事件の真相

〈社会：ストリート〉　※〈シャーロックホームズ〉などの技能に成功した場合、全ての情報が開示される

10　民間保安員制度を制度化し、ブラックハウンド上層部、N◎VA行政府、トゥルース・リサーチ社の3社で利益を得ようとするも、その障害となっていたエグゼクが殺害された事件。ブラックハウンド上層部の命を受けた“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海は視察と称してエグゼクをレッドエリアに連れ出し、トゥルース・リサーチ社の関係者が殺害した。目撃者も証拠もなく、捜査は難航を極めた。

12　家族が病気で金が必要だったスクワッターに事前に金を握らせておいた。凶器となった刃物も偽造したIDで購入、刃物とIDごとスクワッターに渡し、捜査が行き詰まったところで颯爽とトゥルース・リサーチ社が解決。自作自演だが、「科学調査と電脳による追跡を行い、購入履歴から犯人を特定した」と評価を上げた。

14　上記について、マミは実際に携わった探偵たちが証言する動画と、偽造IDでの購入履歴に記載されている時間と、実際に刃物を購入した店の防犯カメラの動画を持ち合わせており、殺人事件の真相の証拠として用意し、証拠隠滅のためにマリを殺したことを突きつけるつもりだ。

16　不動学武はこの件に関して、自在にコントロールできる情報を握り込んでいると推測できる。そのためマミの用意した証拠だけでは不動は逃げ切ることができる（不動学武は《タイムリー》を残しているおり、1回まで《真実》を打ち消すことができる。真相を明らかにするには、マミの《真実》以外にもう1回《真実》を使用する必要がある）。

(*15) 多額のバックマージン

例えばトゥルース・リサーチ社が8プラチナムで出来る仕事を、ブラックハウンドから10プラチナムで引き受け、1プラチナムをブラックハウンドの上層部に、1プラチナムをこの件に関わった政治家に支払うなどの方法。端的に言えば賄賂であり、汚職だ。

注釈

● SPSについて

本シナリオは、情報項目も圧縮し、使用するデータも制限することで負担が少ないシナリオを目指しているため、基本ルールブック以外のデータやルールは使用していない。しかしルーラーやプレイヤーが慣れている場合、SPSのルール（クロス・ザ・ライン42ページ）を採用したいと思うこともあるだろう。

その場合、【殺人事件の真相】の調査が終わった時点で[SPS：真実を明らかにする]を全員に配布すること。達成した場合、ポストアクトでの経験点を5点加える。

●『フェイト』の《真実》について

「■クライマックスフェイズ：●《真実》の真実」で『①フェイト』が不動に対して《真実》を使うシーンは、このシナリオの山場となる。『①フェイト』のプレイヤーが慣れていない場合、演出に困るかも知れない。

結論から言えば、「『①フェイト』が《真実》を使った」時点で不動は真相を話す。特に名推理を披露せずとも、「鋭く睨みつける」などと演出すれば「なるほど……どうやらあなたには全てお見通しのようですね」と不動は喋り始めるし、名推理の演出が苦手なプレイヤーであっても「推理した真実を話し始めます」とプレイヤー発言を行えば、やはり不動は真相を話す。

一方で、演出にこだわりたいプレイヤーのために、証拠となる物件がシナリオ中にいくつか用意されている。『②ニューロ』が復元したマリの記録は全て証拠となりうるし、金を握らされたスクワッター（恐らく、この時点では留置所などにいるだろう）を連れてきて証人にすることも可能だ。

テストプレイでは、「■クライマックスフェイズ：●《真実》の真実」のシーンの最後に『①フェイト』が「俺はこれから探し物をしてくる。明日の選定委員会までには間に合わせる」と言ってシーンから退場した。そして《真実》を使う際には凶器となった刃物を見つけ出し、「アンタのとこの人間の指紋が残ってるぜ」と不動に突きつけた。この時、不動は「馬鹿な！　その刃物は処分したはずでは……！」と驚愕した後、真相を話し始めた。

他にもパターンはいろいろあるだろう。『①フェイト』がかっこよく決められるよう、上記の点についてはルーラーから説明しても良い。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●《真実》の真実

◆解説

不動たちと決着をつけるシーン。場所は民間保安員選定委員会の舞台となる、アサクサのブラックハウンド出張所だ。

描写1では、選定委員会の場でマミが不動に【殺人事件の真相】を突きつけ、《真実》を使用する。それに対し不動は《タイムリー》を使用し、《真実》を打ち消す。

キャストたちはそのタイミングで登場可能とし、描写2に移行する。さらに《真実》を使う(*16)ことで真相を突きつけられた不動はキャストたちを闇に葬るため、カトリーヌとともに襲いかかってくる。カット進行が発生する。敵は不動とカトリーヌ。プレイヤーが4人の場合はトゥルース・リサーチ社の武装課職員（カブトワリトループ）も戦闘に加える。

◆描写1

アサクサのブラックハウンド出張所。そこは民間保安員の事務局として選定された探偵社に貸し出される予定であり、そのまま選定委員会の会場として会議室が使われることになった。

会場にいるのは、ブラックハウンド側から総務部協働課のカトリーヌ・鳴海と行政府の役人。反対側の机に不動率いるトゥルース・リサーチ社の面々。

「ではトゥルース・リサーチ社も事業計画を……」

不動が立ち上がり、アピールを始めようとした矢先、会議室の扉が荒々しく開かれた。

「ちょっと待ってください。その事件についてお話があります」

狩野マミは静止するもなく、会議室にいる人間に集めた資料を公開する。

「メガコーポエグゼク殺人事件についてですが、これは自作自演です。自分たちでエグゼクを殺害し、金を握らせたスクワッターを捕え、凶器となったナイフの購入履歴を偽造していました。その証拠がこれです。この真実を知る私の妹は、口封じのために殺されました」

探偵たちの自白の証言動画、購入履歴の偽造の証拠を見せつけられても、不動は一向に動じない。

「ど、どういうことです？　これが本当ならトゥルース・リサーチさんはこの場にいる資格なんかないと思いますが」

行政府の役人の発言に、カトリーヌは表情を変えずに不動を促す。

「不動先生。説明を」

▼セリフ：狩野マミ

「さあ、不動。私の妹の事まで含めて、真実を話してもらうぞ！（《真実》を使用）」

「そ、そんな……証拠は揃ってるのに……！」

▼セリフ："軟弱探偵"不動学武

「……説明致します。結論から申し上げれば、彼女の話は全くのデタラメです（《タイムリー》を使用）」

「まず弊社捜査員の証言動画。動画の彼らは一様に、暴行の痕跡がある。脅迫すれば何とでも発言させられるため、証言として適切とは言えません。なお、彼らの業務については全て電脳を介した活動日報が有り、その時間帯には殺人事件の現場にいなかったことは証明が可能です」

「次に購入履歴について。偽造IDを使っていたことは間違いないかもしれませんが、その偽造IDで彼が購入していればこれは彼の犯行です。お嬢さん、失礼ですがどこまで調べたでしょうか？　犯人は変装の名人だとご存知でしたか？　これから犯行に及ぼうとする人間が、素顔のままで凶器の準備なんかしない。この防犯カメラの動画の彼は、変装した姿です」

「お嬢さん。ここにたどり着くまでに暴行と違法アクセスを数件踏んでいるね。警察官の前でこれは大変なことをしでかした」

◆描写2

「連れて行きなさい」カトリーヌ・成海が指示すると、傍に立っていたブラックハウンドの警官がマミを捉える。

「離せよ！　不動、卑怯だぞ！　警察までグルか！」

取り押さえられたマミが吠える。

「君も探偵の真似事をしているなら、"確証バイアス(*17)"という心理学用語を知っておきたまえ。自分の仮説や嗜好をもとにそれを支持・強化する情報のみを集め、反証を行わず、自分の価値観を補強してしまう。端的には"自分に都合のいい真実を探してしまう"人間の傾向だ。……君が追い求めてきた《真実》の真実、それはただの確証バイアスでしかなかったのだよ！」

マミを見下ろしながら、不動は悠然と語りかける。

「残念だったな。君がクライアントなら、君が望む真実を語ることもできたのだが」

▼セリフ："シープドッグ"カトリーヌ・鳴海

「ここはブラックハウンドの敷地です。公務執行妨害は適用できます。ここで引き下がるのであれば見逃しましょう。立ち去りなさい」

「（『②ニューロ』に対し）この事件、人は死んでいません。Xランクの未登録市民……しいて言えば、道に落ちていたモノが壊れた物損事故です。それだけのことに、なぜこんなに大騒ぎするのですか？」

「（『③イヌ』に対し）機動捜査課はもう少し、警察の

(*16) さらに《真実》を使う
『フェイト』がどんなキャラクターかによって演出なども変わるだろう。慣れてないプレイヤーはここの演出に困るかも知れない。詳細はコラム参照。

(*17) 確証バイアス
『《真実》の真実』という本シナリオのタイトルに関わる言葉だ。『①フェイト』のキャラクターによっては不動の説明以外にも付け加えることがあるかもしれない。インターネットの検索サイトで出てくるので、気になる場合は事前に調べておくこと。

力関係を証明したほうがいい。あなたのことも上層部に報告し、機動捜査課ごと潰すことにしましょう」

▼セリフ：“軟弱探偵”不動学武

「『①フェイト』先生。やはりあなたが狩野マミに指導していたのですね。残念ながら我々はこの件については無実です。それとも、あなたの方から異議申し立てでもありますか？　名探偵ごっこをしている暇はないのですが」

「(《真実》を使用された)……なるほど。あなたのことをこれからの時代にそぐわない、役立たずだと思っていました。訂正しましょう。少しは役に立つようです。どうです、うちで働きませんか？」

「探偵の世界には、名探偵もハードボイルドな英雄も必要ない。非効率で前時代的なあなた方とはわかりあえないでしょうね。仕方がない（拳銃を取り出す）非効率な方々とは違い、私はインストールした射撃支援プログラムと、それを活かすための毎日30分の集中した実弾訓練により、効率的に自分を鍛えている。荒事も決して苦手ではないですよ」

「(『④トーキー』に対し）あなたたちも自分たちに都合のいい真実を《暴露》するのが仕事でしょう。正義の味方の真似はよすべきです」

▼セリフ：“探偵狩り”狩野マミ

「『①フェイト』さん！　なぜここに？」

「すごい……こうやって真実を明らかにするんだ……これが本当の探偵……！」

◆カット進行

カット進行に参加するのは“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海と“軟弱探偵”不動学武。プレイヤーが4人の場合はこれにトゥルース・リサーチ社の武装課職員（カブトワリトループ20人。TNX288参照）を追加する。

カット進行中、マミは戦闘には参加しない。敵ゲストに狙われたり、かばったりする必要はないが、神業の演出などが必要であれば、適宜攻撃の対象にしてもいいだろう。

◆結末

カトリーヌと不動が倒れれば戦闘終了となる。

現場の騒ぎを聞きつければ、ブラックハウンドも訪れるだろう。その際、事件の真相を説明すればキャストたちに特にお咎めがない。必要があればレイが出てきて騒動を収拾してもいいだろう。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

●エンディング1：パブリックエネミー

シーンプレイヤー：『④トーキー』

◆解説

『④トーキー』が《暴露》を何に使うかにもよるが、基本的には《暴露》の結果を受けて結城あやと会話を行うことになる。以下の描写は「トゥルース・リサーチ社の自作自演」「ブラックハウンド上層部の汚職事件」などを《暴露》したケースを想定している。

◆描写

『④トーキー』の《暴露》により世界は変わった。昨日まで正義の味方だった連中が、一夜で世界の敵（R：パブリックエネミー）に転じたのだ。

『④トーキー』をねぎらうように、チャンネル99のオフィスで結城あやが声をかける。

▼セリフ：結城あや

「お疲れ様。とてもいい記事だったわ。正義の味方も一瞬でこれだもの。世間って怖いわね」

「本当の意味での正義の味方なんて、現実にはいないのかもしれないわ。『④トーキー』、あなたは心当たりとかある？」

◆結末

結城あやとのやり取りを終えたらシーンを終了。

●エンディング2：暴走課長の帰還

シーンプレイヤー：『③イヌ』

◆解説

カトリーヌ・鳴海の《制裁》はセッション中のみ適用される。セッションが終了するエンディングフェイズには影響しないこととし、このシーンには登場が可能だ。『③イヌ』が望むのであれば、レイに与えられた社会戦ダメージを治療してもいいだろう。正当な調査を妨害されたレイの現場復帰を後押しするのは正しい裁きと言える。

また、汚職に関わっていたカトリーヌや不動に《制裁》を与えることもできる。

このシナリオには一切登場していないが、カトリーヌの上司であるブラックハウンドの上層部に《制裁》を使うこともできる。

それぞれ演出は適宜行うことになるが、以下に一般的な演出を記載する。

◆描写

メガコーポエグゼク殺人事件の真相が明らかになった。一度固まった事件の再捜査が決定し、ブラックハウンドは大騒ぎだ。今までの経緯を踏まえ、機動捜査課の中に捜査本部が作られることになった。指揮を執るのは復帰した“暴走課長”である。

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「よくやってくれたよ『③イヌ』。オレだけじゃこの事件は解決しなかった。ありがとうよ」

「さて、忙しくなるぞ。カトリーヌに不動、それにブラックハウンドの上層部か。どこから手をつけたものか」

◆結末

『③イヌ』が事件をどう処理するか、レイと話を詰めたらシーン終了。

●エンディング3：夢の残骸

シーンプレイヤー：『②ニューロ』

◆解説

『②ニューロ』のエンディングは、マリの墓参りを想定している。プレイヤーから希望や提案がある場合は以下の記述にはこだわらずにエンディングを演出すること。

必要があればマミを登場させても構わない。

◆描写

事件は終わった。ネヴァーランドの子どもたちはマリに報告するため、ネヴァーランド内のマリの墓に集まっていた。

墓の周りは綺麗に掃除され、マリが好きだったお菓子や花が備えられている。

▼セリフ：ネヴァーランドの子どもたち

「マリ、事件の犯人が見つかったよ。『②ニューロ』が仇を討ってくれたんだ」

「次からはあやしい大人はもうネヴァーランドに入れないから！　……ごめんな。あの時守ってやれなくて……」

「ねえ、『②ニューロ』。そう言えば、マミさんは探偵になることにしたんだって。マリちゃんは喜んでくれるかな？」

◆結末

子どもたちとのやり取りを終えたらシーン終了。

●エンディング4：運命を継ぐ者

シーンプレイヤー：『①フェイト』

◆解説

『①フェイト』のエンディングでは、マミとの会話を想定している。マミはオープニングの時と同様、『①フェイト』の事務所を訪れ、今回の件に関する報告と、今後は探偵になろうと思っている事を話す。

『①フェイト』が助手として雇うつもりがあれば、マミはそれに応じる。

◆描写

『①フェイト』の探偵事務所の扉を一人の少女が開けた。最初に訪れた時に比べて鋭利な空気はなく、しかし真剣な表情で君に話を切り出した。

▼セリフ：“探偵狩り”狩野マミ

「妹のお墓に行ってきました。事件は終わったよって報告してきました」

「私、探偵って最低の生き方だと思ってました。個人情報を切り売りし、真実で人を傷つける。でも……傷ついたとしても、その真実を求める人が世の中にはいるって」

「妹の死因を調べるのは怖くて、真実を知れば知るほど傷つけられて。それでも私、事件の真相を知り、そして『①フェイト』さんと出会えてよかったと思っています」

「私、『①フェイト』さんみたいな探偵になろうと思ってます。妹が望んでいたからじゃないですよ。妹が憧れていたような、綺麗事だけでは済まされないと思う。でも、世の中には真実が必要な人がきっといるから。あの時の私みたいに」

◆結末

マミとのやり取りを終えたらシーン終了。

“軟弱探偵”不動学武

フェイト◎、タタラ●、カブトワリ

▼設定

「名探偵もハードボイルドの英雄も必要ない。淘汰されるゴミさ」

新興の探偵会社トゥルース・リサーチ社の代表社員。探偵業をビジネスとして成立させるため、電脳と最新技術を駆使した効率重視の探偵社を設立。一方、非効率なやり方を嫌い、所謂名探偵やハードボイルドの気取りの探偵を蔑み、見下している。メガコーポエグゼク殺人事件を自演自作し、民間保安員制度に選定されることで利益を得るために動いている。

▼神業

■真実　■タイムリー　□とどめの一撃

▼能力値／制御値

♠理性：７／14　♣感情：３／12
♥生命：４／10　◆外界：７／13

▼戦闘データ

【CS】７　【AR】１
【防御力】S：1／P：1／I：2

▼一般技能

３♠♣♥◆　回避
２♠♣♡◆　★射撃

▼スタイル技能

３♤♣♡◇　クイックドロー　(TNX214)
２♠♣♡◆　†必殺の矢　(TNX215)

▼アウトフィット

・S13イーグル……電：13／隠：8　(TNX234)
軍用の大型拳銃。攻：P+7

・アーマージャケット……電：12／隠：12　(TNX238)
普通の衣服に見える防具。防（S/P/I）:1/1/2

▼戦闘プラン

メジャーアクションで〈射撃〉〈必殺の矢〉を組み合わせて攻撃する。達成値 +3、攻：P+7+[差分値]。《とどめの一撃》はキャストを攻撃するために使う。

“シープドッグ”カトリーヌ・鳴海

イヌ◎●、ミストレス、ニューロ

▼設定

「上層部の指示です。警察なら、上の命令を守ってください」

ブラックハウンド総務部協働課所属。民間企業と連携しての警備・治安維持・捜査の窓口となっており、汚職・賄賂が横行する協働課の門番として上層部からの任務を受けている。電脳のスペシャリストで、情報の隠匿などを得意としており、マリの記録の消去も自ら行っている。また、判断能力に優れ、有事の際には現場指揮官として動くこともある。

▼神業

■制裁　□ファイト　■電脳神

▼能力値／制御値

♠理性：７／14　♣感情：７／13
♥生命：３／８　◆外界：５／13

▼戦闘データ

【CS】８　【AR】１
【防御力】S：1／P：1／I：2

▼一般技能

３♠♣♡◆　回避
２♠♣♡◇　★電脳

▼スタイル技能

２♠♣♡◇　†サポート　(TNX225)

▼アウトフィット

・WIZ-X……電：12／隠：13　(TNX244)
手帳サイズのタップ。

・アーマージャケット……電：12／隠：12　(TNX238)
普通の衣服に見える防具。防（S/P/I）:1/1/2

▼戦闘プラン

メジャーアクションで〈電脳〉〈サポート〉を行い、対象：単体は即座にメインプロセスを行う。このメインプロセスで行う判定の達成値は +2。
《ファイト》は不動の《タイムリー》に使い、キャストの攻撃をしのぎきれない場合の防御用の切り札として使う。

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。
『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。
本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。
また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。
ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。
シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。
ホームページ（http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/）の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。
（このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります）

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎V A THE AXLERATION　投稿型シナリオ共有サイト

NeuroCrowD

投稿シナリオ No.025 『《真実》の真実』

発行日：2016.5.18

執筆（著作権者）　ソエジマ
イラスト　なし

企画　ニューロ／ＣＤ製作委員会
ＤＴＰ　まだら牛
素材　Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com
サイトＵＲＬ：http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/